

急性虚血性脳卒中患者への即時的な降圧治療で予後は変わらず

脳卒中の予防に血圧を下げることの便益は確立しているものの、急性虚血性脳卒中の患者に対する降圧治療の効果は明らかにはされていない。そこで、本研究では急性虚血性脳卒中患者の血圧を即時的に下げることにより、14日後または退院時の身体障害や死亡が減少するかを検討した。

中国の26の病院より2009年8月から2013年5月までに登録された急性虚血性脳卒中患者4,071人を対象とした。そのうちの2,038人を降圧治療群（ランダム割り付け後、24時間以内に収縮期血圧を10 - 20%低下させ、7日以内に血圧を140/90mmHg以下にし、入院期間中はその値を維持する）に、2,033人を対照群（入院期間中は全ての降圧治療を中断する）にランダムに割り付けた。その結果、ランダム割り付け後24時間以内の平均収縮期血圧は降圧治療群で166.7mmHgから144.7mmHgに低下し（-12.7%）、対照群では165.6mmHgから152.9mmHg低下した（-7.2%）。両群間の差は-9.1mmHg（ $P < 0.001$ ）であった。7日後の平均収縮期血圧は降圧治療群で137.3mmHg、対照群で146.5mmHg（両群間の差は-9.3mmHg; $P < 0.001$ ）となった。14日後または退院時の身体障害や死亡は、両群間に差はなかった（降圧治療群683件 対 対照群681件）。3カ月後についても同様であった（降圧治療群500件 対 対照群502件）。

したがって、急性虚血性脳卒中患者では降圧剤を用いて血圧を低下させても、降圧治療を行わない場合と比べて14日後または退院時の身体障害や死亡が減少しないことが示された。

出典：Journal of American Medical Association. 2014; 311(5): 479-489